

下北半島東部地質構造調査の最終評価結果について

当社は、日本原燃株式会社、東京電力株式会社※、リサイクル燃料貯蔵株式会社と共同で、原子力施設の安全性に関する説明性の更なる向上を図るため、平成24年11月から平成26年5月にかけて、下北半島の太平洋側に位置する大陸棚外縁部について、この地形を形成した地下深部の地質構造に関する調査を実施してまいりました。

これまで実施してきた調査結果を総合的に評価した結果は、以下のとおりです。

なお、本評価については、有識者から構成される第三者委員会を設け客観的な立場から幅広くご指導、ご助言をいただきながら実施してきたものです。

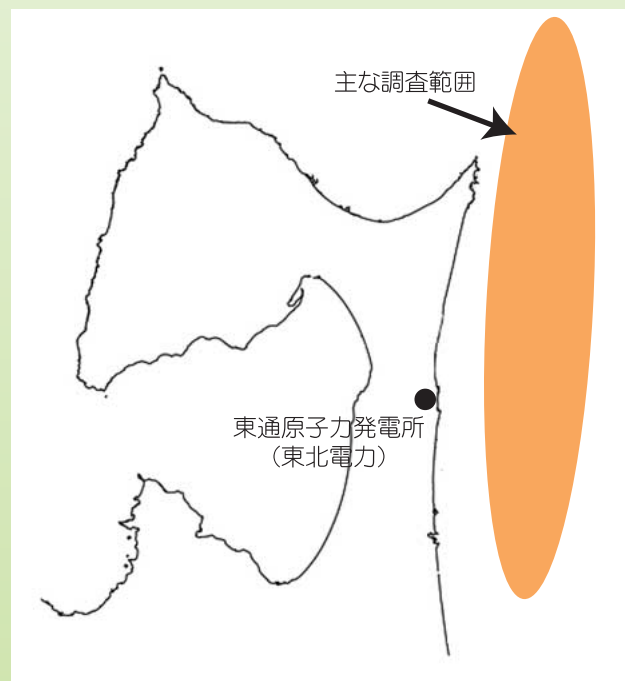
調査結果を総合的に評価した主な結果

※東京電力株式会社は平成25年5月から調査に参画

- 大陸棚外縁断層は約25万年前以降の活動が認められないことをあらためて確認
- 大陸棚上および大陸棚外縁部の急斜面の地質は新第三紀中期中新世(約1,600～1,200万年前)に堆積した地層であること等を確認

(調査概要)

調査名	調査数量
海底地形面調査	828km ²
海上音波探査	399km
採泥調査	11箇所
海上ボーリング調査	6地点
浅部音波探査	158km
海陸統合探査	39km
旧石油公団の探査記録再処理	534km



大学および高等専門学校の学生を受け入れ、研修を行いました

東通原子力発電所は、8月25日から26日にかけて、八戸工業大学および八戸工業高等専門学校の学生41名を対象に研修※を行いました。

研修では、社員による講義や現場研修などを通じて原子力発電所の安全対策や発電の仕組み、発電業務の内容等について学習しました。

参加者からは、「震災後の対応がきちんと行われていることを知り、今後の日本のエネルギー源として原子力発電は重要であると感じた」、「技術情報交流会において現場で働く人の声を聞き、より深く学ぶことができた」などの感想が寄せられました。

今後も、このような研修を通じて、原子力エネルギー分野を支える人材の育成支援に努めてまいります。

※八戸工業大学が、経済産業省の「安全性向上原子力人材育成委託事業」に申請・採択され、当発電所が受け入れをしたもの。



現場研修(原子力技術訓練棟)



現場研修(タービン建屋ギャラリー)



発電所員との技術情報交流会

東通村の祭りでよさこい鳴子踊りを披露しました

東通原子力発電所のよさこい鳴子踊り愛好会総勢42名は、8月30日、「ひがしどおり来さまいフェスタ2015よさこい下北」でよさこい鳴子踊りを披露しました。

当日は、東通の夏を盛り上げようと6月から練習に励んできた成果を存分に発揮しました。ご来場いただいた皆さまには、大きなご声援をいただき、誠にありがとうございました。発電所では、これからも地域の皆さまとのふれあいを大切にしていまいります。



重大事故を想定した訓練を実施しました

東通原子力発電所では、8月27日、発電所運転中に全ての電源および冷却機能が失われ、燃料損傷に至るという、極めて厳しい事象を想定した訓練を実施しました。

今回の訓練では、発電所対策本部内において、重大事故発生時の適切な措置を検討・実施することを目的とし、事象の進展に応じた対策の立案や社内外への通報・連絡(模擬)など、対策本部が円滑に機能することを確認しました。

今後も様々な訓練や演習を繰り返し、災害対応力の向上に努めてまいります。

